

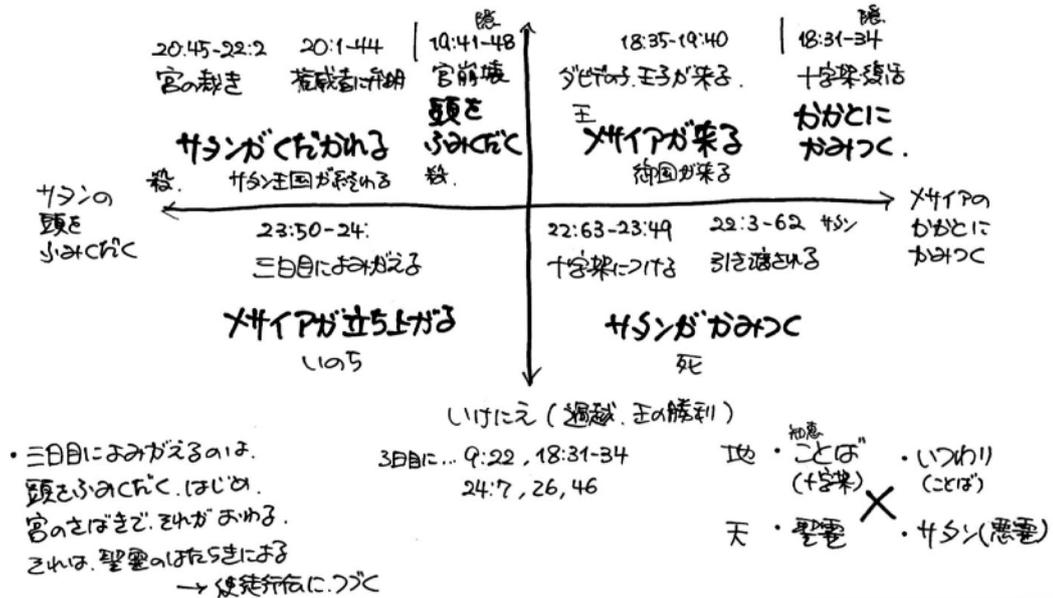


### ルカ福音書18:31-24:

2017.6.28

ルカ 18:31-24:

宮のあがまい(新しい地、御国)



ルカ福音書の18章31節から最後まで段落です。ルカ福音書は4つの段落に分かれています。1章から2章で生まれる。3章から9章で子とされる。10章から18章で戦いがあって、18章31節からのところで新しく生まれる。ダビデの子が父の家に帰るというテーマの書物の最後の段落です。

最後の段落の区分が2013年の時のものだと、6つの段落に分けて見ていました。大きくは、このように6つに分かれてはいるのですが、この関係がよくわからず、途中で終わったような分析でした。今回もう一度やってみました。この6つのものでいうと、1つと2つ、2つと1つというような流れです。1つ(18:35-19:40)と2つ(20:1-44, 20:45-22:2)、2つ(22:3-62, 22:63-23:49)と1つ(23:50-24:)というように分けられると思います。

上の段落のここ(左右)それぞれに導入があるのですね。18の31から34、それと19の41から48。ここ(18:31-34)に十字架と復活の導入があります。それと(19:41-48)は宮が崩壊するというこちらにも導入になっていると思います。この2つは全体を見るときに大切な導入になっているのじゃないかというのが今回の分析です。

裏切られ十字架につけられ3日目によみがえるというここ(表下段)で、引き渡され辱められ十字架につけて殺され、しかし3日目によみがえるということが、話されているところです。この十字架にかかるけれども復活するということは、創世記3章の約束の

「かかとかみつく」という方です。それでメサイアが王として来て、古い王国を終わらせる。これは「サタンの頭を踏み砕く」という方だろうと思います。頭を踏み砕くということは、この復活したというところで始まりますけれど、宮の裁きが最終的にそれを表すということですので、3日目によみがえって、頭を踏み砕く働きが始まって、最終的にAD70年の宮のさばきの時にそれが完成する。踏み砕くのが最終的に終わるということですね。このルカ福音書では3日によみがえるというところまでで終わっていますので、その働き自体は御霊の働きによるということ、使徒行伝に続いていくということ。このルカ福音書と使徒行伝は同じ著者が書いていますので、御霊がたくさん出てくる。特に1章2章で始まっているところですね。この18章からを見ると、十字架と復活のことはあるのですが、御霊はどこかに消えてしまったかのようストーリー上は見えますけれど、それは使徒行伝に続くということだと思います。

地での知恵の言葉、十字架と復活、その知恵の言葉がサタンに対して勝ちましたというのが、ルカの最後のところ。使徒行伝は、天からくだってきた御霊によって、偽りの言葉、偽りの教えと戦って勝利を治めていくというように、段階が変わっていくということです。目に見えるものと見えないものの区別が、ここの天と地というふうにありますね。

その最初のかかとかみついて勝利をおさめるということが、ここ(下段)に書かれています、上の段の方は、頭を踏み砕くメサイアの国が来ます。その王が来ますよ。王の前にひれ伏せということで、ここ(18:35-19:40)で王が来ました。権威ある者たちは黙ります(20:1-44)。宮はさばかれますから(20:45-22:2)、その時に気をつけてくださいというふうに言われているこの20の1からところですね。その導入にここ(19:41-48)にあります。「まだ隠されています(18:31-34)」「まだ隠されています(19:41-48)」というような言い方でこの導入のところがあります。

サタン側とメサイア側とで、その噛み付くことと、踏み砕くことが言われているので、こちら(右)側は、かかとかみつかれる。噛みつかれるものはメサイアですよということが表されています(上段右)。こっち(下段右)は、そのメサイアに噛みつきましたよということで、サタンの方が出てきますね。ちょうど22の3のところの出だしで「ユダにサタンが入った」というところから始まりますから、そのことを暗示しているということは、こういうところからも明らかなのだろうと思います。

こちら(左側)は、メサイアは立ち上がります。頭を踏み砕くために立ち上がって(下段左)、サタンの国は砕かれる。頭が踏み砕かれるというのがここのところ(上段左)ですので、メサイア側から見たものと、サタン側から見たものの違いが全体であるかなということです。

18章31節からのところは、過ぎ越しのいけにえとして捧げられていますから、その王が勝利する。王が勝利したので御国が来るということですから、この下の段の引き渡されて十字架につけられて3日目によみがえる。これは新しいヨシュアが民を連れ出したということですね。新しいヨシュアは新しい国を作るといのが、上の方の段落との違いかなというふうに思います。この各段落の分析については、前回やったものを見てください。3月8日のものです。この部分(19:41-48)は、新しい分析では次の段落のはじめかなというふうに変えました。これ(2017/3/15)が2個目かな。この辺の出だしのところの終わりのところの区別が今回は少し変えていますけれども、その辺の区別をこの大きな流れを見れば、もう少しはっきりするんじゃないかというように思っています。

ですから、この段落の大きな流れを見る時に、かかとかみつく方の十字架と復活、宮が崩壊するところの頭を踏み砕く。この事に関しては、使徒行伝以下に続いてく。使徒行伝の方は、御霊とみことば。みことばの証と御霊の働きというのが中心的なストーリーの流れのカギになっていますので、ルカ福音書と一致しているということだと思います。